

第11回 北海道 小・中・高生 短歌コンテスト二次審査通過作品（通過336首中、入選以上を除く278首）

小学1～3年生の部

1	暑い日にいろいろあそんでたのしいな水遊びして花火につりも	釧路市立武佐小学校	3年	薄井 優奈
2	友だちと夜おそくまで話した朝におきると4時15分	釧路市立武佐小学校	3年	梅津 優花
3	寺子屋でねと思いやねれないぞねたと思えばやっとなむれた	釧路市立武佐小学校	3年	金子 響己
4	寺子屋でねと思ったらとつぜんにうるさくなってやっとなねれたよ	釧路市立武佐小学校	3年	菊池 軌心
5	おまつりで1等あたりうれしいなくじびきをやりたのしみすぎる	釧路市立武佐小学校	3年	佐藤 麗亜
6	まつりの日やきとりたべたおいしいなカードもかってたのしかったな	釧路市立武佐小学校	3年	椎名 琉斗
7	暑い日にスイカを食べてすずしいなでもたべすぎておなかこわした	釧路市立武佐小学校	3年	住吉 陽向
8	寺子屋でバーベキューのあと花火した朝おきたのは5時半だった	釧路市立武佐小学校	3年	早坂 日良
9	おまつりできんぎょすくいを三回やって九ひきとれてうれしかった	釧路市立武佐小学校	3年	福士 花音
10	スイカわりはじめてやって楽しいなあまいスイカをたくさん食べた	釧路市立武佐小学校	3年	細越 亮佑
11	まいにちがえがおでいようニコニコだみんなのえがおピカピカえがお	富良野市立東小学校	2年	仁田原こころ

小学4～6年生の部

12	休日自分が好きな一日はなんにもない日自由な時間	旭川市立末広北小学校	6年	田中 理貴
13	授業中手があつくなるあっち机の鉄で手のひらひやす	旭川市立末広北小学校	6年	秦 菜摘
14	夏休み行きたい場所は海キャンプすなで遊んでトンネル作る	旭川市立永山西小学校	4年	橋本 明唯
15	体中どこをおしてもみつからないどこにあるのかやる気スイッチ	安平町立追分小学校	6年	西原 佑貴
16	うれしいな秋の新作ワンピースさっそくそれ着てお出かけ行こう	安平町立追分小学校	6年	橋本 結衣
17	友だちに心をひかれひとめぼれ告白するのむずかしすぎる	江差町立南が丘小学校	4年	山崎 来美
18	つゆのじき雨上がりにはあじさいの葉っぱの上にかたつむりくん	江別市立江別第二小学校	4年	大島 悠聖
19	さくらんぼいつも二人でくっついて夏のあつい日赤くほほえむ	江別市立江別第二小学校	4年	岡本 さや
20	えんぴつがけしごむくんとけんかしてけしごむくんがすごくないてる	江別市立江別第二小学校	4年	藤田潤二郎
21	楽しみは金曜パパが帰ってきて家族団らん話するとき	小樽市立花園小学校	6年	加治 卯月
22	あじさいの上ですずくがおどってるすぐ晴れた時七色の橋	札幌市立栄南小学校	5年	今井 咲良
23	耳すまし海とうきわの音がする空もまじっておしゃべりしてる	札幌市立栄南小学校	5年	植原 陸斗
24	マニキュアとペディキュアぬってかわいいねサンダルはいてショッピング	札幌市立栄南小学校	6年	加藤 杏菜
25	衣替え容姿も心も色付く時はひらひらひらと身が散る時よ	札幌市立栄南小学校	6年	加納 光
26	きみの声とおくにいてもわすれないなみだをガマンし別れを告げる	札幌市立栄南小学校	6年	北村 優衣
27	夕暮れにとんぼが飛んだ秋の空あたたかい風少し恋しく	札幌市立栄南小学校	6年	斉藤 光咲
28	たのしみは夢の世界の図書館で本といっしょにおどっているとき	札幌市立札幌小学校	6年	鈴木 奏音
29	海に来てキラキラ光る水面に雲一つ無い空が映る	札幌市立澄川南小学校	6年	安達 ゆめ
30	たのしみはルツで絶きょうGかかる空を見上げて落とされる時	札幌市立西園小学校	6年	山本 愛理
31	夏ざしきふうりんの音で夕すずみすだれをつるし人あおぐかな	札幌市立豊園小学校	4年	内山 峻幹
32	カラオケでレイニーブルーうたいだすおわらないよるまたおもいだす	札幌市立発寒東小学校	6年	中谷 賢斗
33	夕方のとんぼとともに帰る空指をのぼすとなくうれい	札幌市立発寒東小学校	6年	畑山 結衣
34	ペンギンがえさをもとめてうみへ行くさかなはともと思つてあつまる	札幌市立福住小学校	4年	崎山 遥楓
35	ラベンダーさわやかな香りいきと私と共に太陽あびて	札幌市立円山小学校	5年	井田 彩那
36	暑い朝まっかなトマト妹としゅうかくするよるこびうれし	札幌市立円山小学校	5年	太田 さら
37	休み花一瞬咲いてすぐ枯れるまたすぐ次の花が咲きだす	札幌市立円山小学校	5年	沖田 笑
38	サロマ湖は自ぜんのかたまりまっ青だ心にのこった地きゅうの広さ	札幌市立円山小学校	5年	影山 陽哉
39	道東のあばしりかんごく行ってきたしゅう人いたぞポケモンいたぞ	札幌市立円山小学校	5年	樫本聡太郎
40	旭岳晴天の中さわやかにあいさつかわす人々の声	札幌市立円山小学校	5年	小林優李香

41	飯ごうでたいご飯はおいしいなみんなで創る思い出の味	札幌市立円山小学校	5年	城 日向
42	青空にぐんとそびえる利尻山湖の中かがみの世界	札幌市立円山小学校	5年	橘 日向子
43	与那国の海で泳いだきれいだな魚になった気分がしたよ	札幌市立円山小学校	5年	難波 明己
44	ひさびさのダンスおどれば舞い上がり太った私のしぼりもゆるる	札幌市立円山小学校	5年	畠山 若菜
45	知床の世界に誇る海の中大きく泳ぐクジラやイルカ	札幌市立円山小学校	5年	古瀬 信也
46	ゆかた着てたいこにあわせ盆踊り暑い夏などふきとばしちやえ	札幌市立円山小学校	6年	伊藤 瑠奈
47	NO作業言ってもらえない農作業草をかき出し牛に餌やり	札幌市立円山小学校	6年	内田 晃介
48	草原を自在に走るセグウェイの気分爽快ガーデン散歩	札幌市立円山小学校	6年	大萱生琉衣
49	湊沸の草原を舞うシマアオジタ日をあびてかがやく姿	札幌市立円山小学校	6年	佐藤 尚也
50	夕ぐれに祖父に連れられ散歩道線路の向こう夕日がしずむ	札幌市立円山小学校	6年	城山 颯汰
51	青森へ白神山地おとずれて自然にふれるいやしの時間	札幌市立円山小学校	6年	曾田 青
52	ぼくのねこ青い瞳(め)の中映ってる流星群の流れる光	札幌市立円山小学校	6年	土井 柊人
53	祖母の家せんこう花火のちる姿水面(みなも)に映る満月のよう	札幌市立円山小学校	6年	中山 琴葉
54	浴衣着て仲間とまわる夏祭りころもおどるたいこのひびき	札幌市立円山小学校	6年	古沢 優衣
55	祖母の家ゆらゆらゆるるゆりいすで一人ページをめくる楽しみ	札幌市立円山小学校	6年	三浦 真桜
56	麦畑金のじゅうたんかがやいて風がふくと黄金の海	札幌市立円山小学校	6年	村田 春菜
57	夏の朝船の上にて魚つり大物まだかと海を見つめる	札幌市立円山小学校	6年	渡辺 湧也
58	怖い姉たくましい父優しい母これが大事なぼくの家族だ	鷹栖町立鷹栖小学校	4年	佐藤 大晟
59	晴れた空夏とはちがう秋の風草のにおいも夏から秋へ	当別町立当別小学校	4年	上山 華琳
60	たんじょうび自ぶんがうまれうれしいねおかあさんもねおとうさんもね	当別町立当別小学校	4年	垣澤 琉磨
61	おかあさんいつもごはんをつくってるそのあいじょうあたかいいね	当別町立当別小学校	4年	小本 彩智
62	夏の海きらきら光る海の上白いすなはま子どもが遊ぶ	苫小牧市立若草小学校	4年	蕪木 柚奈
63	スイカわりどこかわからず人たたく目かくしはずしすごくおどろく	苫小牧市立若草小学校	4年	小館 和真
64	お祭で金魚すくいをする子ども大人もむちゆう夏の思いで	苫小牧市立若草小学校	4年	佐藤 晴輝
65	夏がきた海で泳いでいそ遊び魚をつってやいてたべるよ	苫小牧市立若草小学校	4年	中野 康介
66	ふゆにはねありんこいないどこいるの土の中だなまた見てみたい	苫小牧市立若草小学校	4年	山下 大翔
67	あらたなる命が生まれひな鳥がぴよぴよなくようれしくなくよ	中札内村立中札内小学校	4年	小西 隆太
68	ゆめ見てたロケットつくて旅に出る宇宙飛行士いつかなりたい	中札内村立中札内小学校	4年	清水 泰成
69	山の上辺り一面雲の海日の出とともに見えてくるうみ	中富良野町立西中小学校	4年	吉田 巧
70	みわたせばこんぶのじきだあついけどかぜもちからになってるからな	函館市立磨光小学校	4年	工藤 達毅
71	うえられてすぐにそだつやすくとコンブたちはねがんばっている	函館市立磨光小学校	4年	小坂 連士
72	見わたせばうさぎーぴきいないけどうらの小屋にはきれいな夕ぐれ	函館市立磨光小学校	4年	張磨 龍雅
73	そよ風にいたずらされて金色に秋のススキがそとと輝く	浜中町立霧多布小学校	5年	赤沼 幸音
74	そよ風に秋桜(コスモス)ふかれ切なさに見上げた空は秋の夕やけ	浜中町立霧多布小学校	5年	渡部 瑚斗
75	こんぶ取りほしてやすむこうおもうしょうらいぼくもこんぶとりたいな	浜中町立霧多布小学校	6年	徳野 隆久
76	暑い日はスイカを食べてたねとばしとおくめざしてしんけん勝負	比布町立中央小学校	4年	北川悠太郎
77	なにごとこつこつじみにしているがときどきパツとはじけるわたし	比布町立中央小学校	4年	土田 葉月
78	夏休みかぶらまつりでミニ四駆前は負けたが今年リベンジ	美唄市立中央小学校	4年	佐々木颯士
79	なつのうみそよかせそよぐすなはまできれいなかいをみつけてみよう	深川市立一巳小学校	4年	羽場 澄伶
80	家にはねりゅう学生がホームステイ今日も「おはよう」楽しい一日	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	安藤 美歩
81	菜の花にいろんなチョウがいたんだよよくみてみるとみつまっている	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	伊藤 瑠衣
82	私のね心の中にいつもいる笑顔あふれる小さき妹よ	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	上田 柚和
83	そよそよと風がふく中松の木は動きもせずにただじっと立つ	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	川島 慶彦
84	運動会必死にやって負けたけどかこの自分に勝てた気がする	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	高橋ありあ
85	まいとしの家族こうれいゴミ拾いきれいにすると心ピカピカ	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	土生 結芽
86	寝転がり草につつまれ空見上げ自然と心結びつく時	北海道札幌聳学校小学部	6年	伊藤 壮空

87	はてしない草原に行きそこで今走り出したい心のままに	北海道札幌聳学校小学部	6年	高田 柊摩
88	たのしみはお正月のお年玉未来の自分に貯金する時	真狩村立真狩小学校	6年	赤沼 恵司
89	ざるそばは夏に食べるとおいしいよおそば屋さんはいつもあせたく	室蘭市立知利別小学校	4年	宮西 希優
90	リオ五輪メダルをかじる選手たち努力の証どんな味かな？	室蘭市立八丁平小学校	4年	中居 陽夏

## 中学生の部

91	夏の夜暑かった陽が嘘のよに柔らかな風届けてくれる	愛別町立愛別中学校	2年	熱海 武蔵
92	夏の暮れ静かに染まる夕焼けに刹那に過ぎる時は儚し	旭川市立神居中学校	3年	吉田 涉真
93	春過ぎて日に日に縮む影法師ゆれる風鈴蝸の声	旭川市立東陽中学校	1年	小山内 綾
94	風薫るゆれる風鈴そよそよと夏の訪れ知らせる音色	旭川市立東陽中学校	1年	下山さくら
95	夏の夜にひっそり咲いて香を流す月下美人は人を呼ぶ花	旭川市立東陽中学校	1年	野崎 桜都
96	太陽をまぶしく見上げた向日葵のきれいな顔が真っ黒にやけた	旭川市立東陽中学校	1年	道廣 結花
97	桜より儚い君はあきざくらたおやかな君路肩の姫君	旭川市立明星中学校	2年	岡崎 瑠依
98	夏の夜暑さ感じぬ虫達が光をかこみおにごっこする	厚沢部町立館中学校	2年	由利 駿弥
99	帰り道バスから見えた夕焼けが「おつかれ様」と言っているかも	厚真町立厚南中学校	2年	大藏 流果
100	光る花夜空に上がり舞っていく私の隣で笑顔輝く	石狩市立厚田中学校	2年	吉田 彰吾
101	車窓から手をふる友が見えたとき海の香りがさそう涙	石狩市立樽川中学校	2年	新井 七海
102	談笑中音楽室に光さし吹いてくれよとチューバは光る	石狩市立樽川中学校	2年	小林 風香
103	たんぽぽよ一人で旅に出ていか世界をのぞき何を想うか	石狩市立樽川中学校	2年	竹永明日貫
104	祭りの日空に上がった花火見てわっと歓声君の手をとる	岩見沢市立北村中学校	2年	瀬能 花恵
105	森の中緑が綺麗カメラとるこの風景を壊したくない	歌志内市立歌志内中学校	2年	土居 寛太
106	わすれないこの手に残るぬくもりをあの日の天気もあの日のことも	江別市立江別第三中学校	2年	川村 光紀
107	家族からはなれてわかる温かさわが家こいしい母の手料理	江別市立江別第三中学校	2年	松井萌々子
108	「一つだね」残ったリンゴを妹と上手に切って仲良くはんぶんこ	遠軽町立南中学校	2年	内田 梨瑚
109	赤色のポストに入れたあの手紙届いてほしい彼の心に	遠軽町立南中学校	2年	佐藤 香琳
110	夏よ夏へブリディーズのわたすげの光の風となりてそよぐよ	置戸町立置戸中学校	1年	福沢 夢叶
111	友と見たコバルトブルーの海と空みんな輝く夏の青春	小樽市立朝里中学校	2年	和田 侑里
112	教室で耳をすませば彼の声聞いてないふり私の想い	小樽市立菁園中学校	2年	石田 光
113	部活動少し嫌いなあいつも団結できる大好きなとき	小樽市立菁園中学校	2年	小笠原 颯
114	青春(あおはる)を生きる私はかけぬげる響く怒声をひらりとかわして	小樽市立菁園中学校	2年	佐々木咲羽
115	乾いた地眺める景色冷えたあせ沈む夕日にそっと吹く風	小樽市立菁園中学校	2年	中村 龍
116	音楽室青春ささげた吹奏楽音色が集う虹色ユニゾン	小樽市立菁園中学校	2年	畑 蓮花
117	音楽室前の階段行けばいる制服の中かくしてるチョコ	小樽市立菁園中学校	2年	牧野 美羽
118	空に咲く無数の星と光る月どの光より輝きたくて	小樽市立望洋台中学校	2年	柿木 玲音
119	橋の下カモの親子が泳いでる家族の顔がふと浮かんだよ	音威子府村立音威子府中学校	1年	寺島 花
120	開花して黒いキャンバス色付いて一番好きな光の絵画	北見市立上常呂中学校	2年	熊谷朔耶
121	さすが夏ちらりと見える筋肉にきゅんとするのはわたしの秘密	北見市立北中学校	3年	酒井ありさ
122	あじさいやしずかなにわに一輪と青いコサージュ鮮やかに咲き	北見市立北中学校	3年	山下 隼一
123	月見れば何度も何度も思い出す別れを言えない二歳の涙	釧路市立景雲中学校	2年	西山 弥桜
124	朝焼けや白銀の竜駆け抜けるその線路脇紫陽花香る	釧路市立美原中学校	1年	松浦 遼
125	手を合わせ目を閉じ祈り感じる木々の歌声香る線香	札幌市立幌東中学校	3年	難波ほの香
126	迫り来るなんとも言えぬこの気持焦りと不安たまに寂しさ	札幌市立札幌中学校	3年	大久保麗香
127	手紙入り紙ひこうきをとばしたら想いよせてるあの子のもとへ	札幌市立札幌中学校	3年	大町 卓巳
128	空を見あげふと思いだすあのときのじゅんすいだった私の心	札幌市立札幌中学校	3年	鎌田 美月
129	夏の空ふと空見上げ立ち止まる心ひかれる二人はどこへ	札幌市立札幌中学校	3年	小林 鴻太
130	手にもてばゆうに過ぎる数時間スマートフォンは受験生の敵	札幌市立札幌中学校	3年	笹谷 昌汰

131	夜にrun月9見逃しもうつまらんみんなネタバレわたし混乱	札幌市立札幌中学校	3年	高橋日菜多
132	天の川遙かな時のメッセージ現世の者になにを語るか	札幌市立札幌中学校	3年	中川 海
133	おかえりと言わんばかりの緋色空旅の想い出胸に染み入る	札幌市立白石中学校	3年	伊藤 寛樹
134	鎌倉の情緒あふれる町並みに心ひかれる修学旅行	札幌市立白石中学校	3年	武田 萌花
135	夕焼けは幾多の私を照らし出す常闇の中へと差しこむ光	札幌市立中央中学校	2年	上前美羽依龍
136	騙されて指にとまりし赤とんぼ夏の終わりと吾に気づかず	札幌市立中央中学校	2年	長尾すみれ
137	君の手が放つシュートに私の目キラキラ輝く汗も輝く	札幌市立月寒中学校	2年	井上 莉音
138	思いつつあなたと見てる赤い海心はあなたに染まっていくよ	札幌市立月寒中学校	2年	木島 桜子
139	おーい雲流れていくなら一緒にさ私のこともつれてって	札幌市立月寒中学校	2年	對馬 雅
140	「久しぶり」「背え伸びてんじゃん」「そっちこそ」二年前と変わらぬ二人	札幌市立月寒中学校	2年	原田 悠汰
141	あせってる俺に横目になまいきにふんっと鼻でカモメが笑う	札幌市立月寒中学校	2年	松岡ひなた
142	戦争をずっと見ていた花や虫声があるなら何を叫ぶか	札幌市立月寒中学校	2年	三上 拓寛
143	夏の夜やねにすわってすずんでるだれかこないかいやきてほしい	札幌市立月寒中学校	2年	湊 観音
144	砂浜で貝を見つけて拾っては海のおもいでもちかえる	札幌市立月寒中学校	2年	森元 風惟
145	病室の窓からのぞく桜の木ねがいむなく花は散っていく	札幌市立月寒中学校	2年	山本 光騎
146	チクチクと僕の足刺す虫たちを悪気はないがつぶしてしまう	札幌市立月寒中学校	2年	渡邊 愁羅
147	写真ではうつりきらない夏の日の思い出すべてこの貝の中に	札幌市立日章中学校	2年	明石 桃葉
148	咲き誇る花畑から顔出して笑う瞳がカメラに写る	札幌市立日章中学校	2年	飯岡 美弥
149	何思う春野飛びたり紋白蝶追いつ追われつ巨木の向こうへ	札幌市立日章中学校	2年	佐々木克哉
150	数々の想いを文字にちりばめて空に願いし七夕の夜	札幌市立日章中学校	2年	横山 りの
151	青い池赤い光に輝(て)らされて空の青さと共に輝く	札幌市立平岡中学校	2年	石川 紗弥
152	暑い中ビニールハウスに風はない日差しを浴びて背に汗をかく	札幌市立平岡中学校	2年	奥野 叶愛
153	アスパラの雑草抜きを数時間ジュース一缶思い出の味	札幌市立平岡中学校	2年	佐藤 芹菜
154	新鮮な風を感じる富良野町ほのかに香る自然の恵み	札幌市立平岡中学校	2年	矢津田和真
155	見上げれば空たくさんに花火哉心地よい風呂衣くすぐる	札幌市立平岡緑中学校	1年	西岡杏優香
156	宿を出てふと目と目が合うさんぽねこもう帰ると小首かしげる	札幌市立平岡緑中学校	3年	佐口絵梨佳
157	心決め机にノート広げれば十五の僕の夏が始まる	札幌市立平岡緑中学校	3年	新山 遼
158	炎天下風鈴の音運ぶ風肌で感じて耳で楽しむ	札幌市立平岡緑中学校	3年	丸本 雄斗
159	自転車と君と走った夏の日々僕のペダルは鼓動と同じ	士別市立上士別中学校	2年	道順こずえ
160	夏祭り二人並んで歩いてく花火に照らされ揺れる向日葵	士別市立上士別中学校	2年	水留 七誓
161	鳥の声木々の隙間に射す光緑の森は今日もにぎやか	占冠村立占冠中学校	1年	山本 萌
162	秋がきてトンボが空を飛んでいるともに飛びたい赤い夕日を	鷹栖町立鷹栖中学校	2年	利根川 涼
163	僕のいない夏の砂浜寄せる波あなたは誰と海を見るのか	伊達市立光陵中学校	2年	佐藤 琢磨
164	甲子園ひとつのボール追いかけていつか立ちたいあのマウンドへ	当麻町立当麻中学校	1年	直井 然
165	授業中かすかな眠気はらおうとわざとおとした白い消しゴム	苫小牧市立啓明中学校	2年	菊田 菜乃
166	黒板を消す日直の君を見て私の心は静かに高鳴り	苫小牧市立啓明中学校	2年	齋藤 稜弥
167	美術室部員みんなで描く壁画心をこめて色を重ねて	苫小牧市立啓明中学校	2年	田中 結子
168	凍らせたペットボトルも汗をかく体育館のバレエ部の夏	苫小牧市立明倫中学校	2年	沓澤 瑠奈
169	チロリンと風鈴の音ペン止まる少し休めよ天からの声	豊頃町立豊頃中学校	3年	末永 佑真
170	氷塊に麦茶を注ぐパキパキと海にぽっかり浮く島のように	二セコ町立二セコ中学校	2年	五十嵐太一
171	遠い町今朝に帰った友達が夏の鈍行嫌だと話す	二セコ町立二セコ中学校	2年	森山 光南
172	いじめっていじめるほうは何もないいじめられると痛みがわかる	根室市立光洋中学校	3年	栗原 一斗
173	夕暮れにかもめの群れを染める赤かがやく君のつぶらな瞳	函館市立的場中学校	2年	秋田 美海
174	ありがとう産んでくれてありがとういつもは言えない感謝の言葉	函館市立的場中学校	2年	金丸 悠乃
175	ざわめいた林の中で柳だけ頭を垂れてただ下を向く	函館市立的場中学校	2年	小出 暖
176	祖母の笑み下がる目尻のしわの数月日の流れ教えけり	函館市立的場中学校	2年	斉藤 愛生

177	夏の夜夜空に大きな花が咲くほのかに見えるあなたの浴衣	函館市立的場中学校	2年	坂田 陸
178	夏の日に猫の親子が涼さがし日陰ですずみかたまりねむる	函館市立的場中学校	2年	武井 裕大
179	函館の未来をつなぐ新幹線楽しみももっと増えつづけるね	函館市立的場中学校	2年	田島 亜唯
180	この夏の最初で最後の初恋は伝えられずに秋になりけり	函館市立的場中学校	2年	松永 陸
181	花火よりトロピカルじゅーす青夏味(せいかあじ)五感はじけるSummerFestival	函館市立港中学校	2年	佐藤いぶき
182	夏風に吹かれる港に目をとめる煌めく漁り火輝く体	函館市立港中学校	3年	斉藤 璃子
183	その中を歩いていいか夕立よ僕の心を洗っておくれ	函館市立港中学校	3年	佐藤 大知
184	心地良く鼓膜を揺らす風鈴の音色聞こえる夏の夕暮れ	富良野市立富良野東中学校	2年	扇原 深雪
185	台湾の中学生と過ごす夏初めて学ぶ文化の違い	富良野市立富良野東中学校	2年	野村 幸助
186	純粋な小さい笑顔に破壊力けがれた心もノックアウト	富良野市立麓郷中学校	2年	清水 涼平
187	王子様いつか私を迎えに来る階段で靴がぬげただから！	別海町立別海中央中学校	2年	穴戸 愛実
188	なんどでも既読つくまでながめてる待ちどおしくてため息一つ	別海町立別海中央中学校	2年	高橋 侑沙
189	天高くのびるひまわりその下でそっとかくすの君への想い	北海道教育大学附属函館中学校	2年	木庭 愛理
190	恋をして君の横顔いつまでもずっと想うよ伝わるように	北海道手稲養護学校中学部	3年	砂川 鈴果
191	待宵のゆかたの袖になじむ風時計見つめる午後五時のわれ	北海道龍谷学園双葉中学校	2年	惣坊 茜音
192	夏祭り屋台をまわって楽しんで帰る時には寂しさが増す	三笠市立萱野中学校	1年	加賀 智早
193	我が校は今年で終わってしまうけどいつまでたっても忘ることなし	八雲町立熊石第二中学校	2年	須田 成
194	夏の森くらくんたらでかけよう虫かごとあみいざ虫とりへ	湧別町立上湧別中学校	1年	古賀 稜吾
195	野の花も空の青さも違って見えるピンクの縁の初めての眼鏡	立命館慶祥中学校	1年	合津 花梨
196	からふるな衣装をまといたのしげだ夏をいろどるよさこい祭り	立命館慶祥中学校	1年	越野 文美
197	やるつもり旅行かばんに問題集一度も開かずダンベルと化す	立命館慶祥中学校	1年	中村 由香
198	夏祭りみんなと別れて二人きりいきより近い二人の手の距離	立命館慶祥中学校	2年	桂 帆奈
199	ラムネ瓶中に見えてるビー玉とそっとしまった私の本音	立命館慶祥中学校	2年	早坂 日花
200	夏まつり買ったラムネの泡はじけ君への想いも一緒に届け	立命館慶祥中学校	2年	三品 優月
201	夏の朝太陽楽器に反射して彷彿させる目指すステージ	立命館慶祥中学校	3年	磯部 百音
202	終了のホイッスル鳴りあふれ出す涙と汗と仲間との日々	立命館慶祥中学校	3年	出口 佳哉

## 高校生の部

203	金が無い川でせんたく宝くじ流れてきたらごうていたてる	北海道旭川工業高等学校	2年	臼井 拓斗
204	人生を棒に振るようなアルバイトシフトを少し減らそうかな	北海道旭川工業高等学校	2年	梶 豪嗣
205	寝ぼうして朝食食べれず学校へ休み時間に購買へ行く	北海道旭川工業高等学校	2年	河端 翔
206	やわらかな陽の光が降る作法室和気藹々と日々のお稽古	北海道旭川工業高等学校	2年	小高 萌依
207	いつかまたあなたの声をきくために今日も私は走り続ける	北海道旭川工業高等学校	2年	近藤 神
208	パンの耳みんなに捨てられ生ゴミに。俺は好きだぞ。拾って食うよ。	北海道旭川工業高等学校	2年	阪谷 知亮
209	太陽に照らされ生きるひまわりをながめて歩く夏の盆の日	北海道旭川工業高等学校	2年	阪本 祐規
210	森や川自然の中に棲む虫のどこにでもある大きな世界	北海道旭川工業高等学校	2年	山内 啓嵩
211	夏祭り夜空を照らす大花火みんなの笑顔たくさん咲いた	北海道旭川工業高等学校	2年	横井 陽貴
212	仏壇のお菓子と仏花を狙う猫お参りしてから食べて下さい	北海道小樽工業高等学校	2年	大原健太郎
213	バイト先お客が神と教わったこの世に神は何人いるの	北海道小樽工業高等学校	2年	片岡 大稀
214	墓参り今年の夏も勢揃い先祖が家族集めてくれる	北海道小樽工業高等学校	2年	小林 祥平
215	炎天下二十二人がボール追う笛が鳴るまでゴール目指して	北海道小樽工業高等学校	2年	小本 峻也
216	グラウンド全体に音が響いているバット振る音ボールとる音	北海道小樽工業高等学校	2年	下山 恭平
217	夏の夜ふわりと潮の香りして空に消えてった打ち上げ花火	北海道小樽工業高等学校	2年	高橋 康貴
218	夏の夜線香花火見るふりしじっと見つめる君の横顔	北海道小樽工業高等学校	2年	田中 真知
219	華やかな花火のあとの淋し夜線香花火ひとり楽しむ	北海道小樽工業高等学校	2年	中村 亮太
220	恋バナを語ってる時女子の目がライオンよりも鋭く光る	北海道小樽工業高等学校	2年	米山 翔太

221	夏の日の夜空に浮かぶ大三角大きすぎて僕小さくて	北海道小樽工業高等学校	2年	依田 勇飛
222	日光に背を向けて咲くひまわりもきっと暑さと戦っている	北海道小樽工業高等学校	3年	北原 彩加
223	君と見た満天の空願うこと忘れて二人流星群	北海道小樽工業高等学校	3年	佐々木聖人
224	定年の後姿に何を見る己の犠牲家族の重み	北海道小樽工業高等学校	3年	佐藤 孝二
225	砂光り貝がら見つけ君に見せ宝物だと言う子供たち	北海道小樽工業高等学校	3年	柴田 涼加
226	風香る海の匂いか聞いてみる日差しのせいと太陽言った	北海道小樽工業高等学校	3年	須藤 瑠偉
227	抱きしめて刹那に感じたあの香り溢れる愛しさ後の悲しみ	北海道小樽工業高等学校	3年	瀬戸川 稜
228	夕立の雨に打たれて急ぐ足靴の中の傘にも気づかず	北海道小樽工業高等学校	3年	田仲 令一
229	坂の上草花虫と実習し旋盤回し汗落ちる午後	北海道小樽工業高等学校	3年	辻本 隆一
230	夏の夜気持ち高ぶる初デート鼓動重なる打ち上げ花火	北海道小樽工業高等学校	3年	中居 淳
231	夕立に困った君を傘に入れふれあう肩に夏を感じた	北海道小樽工業高等学校	3年	納谷 樹
232	いくつもの選択越えて辿りつく君と二人幸せな日々	北海道小樽工業高等学校	3年	仁木 達也
233	街歩き足を進めた路地裏に秘境見つけた僕冒険家	北海道小樽工業高等学校	3年	濱田 尚哉
234	満開の太陽浴びて咲き誇る北竜のひまわりの花	北海道小樽工業高等学校	3年	堀内 海
235	今年の今日はバット振ってたな机に向い寂しく思う	北海道小樽工業高等学校	3年	丸川 翔大
236	雲一つ無い空見上げ黄昏る自分は何をしているのかと	北海道小樽工業高等学校	3年	宮下 留依
237	花買わずつぼみを買って時を待ち枯れた花は土に還って	北海道小樽工業高等学校	3年	八柳 拓斗
238	ついに来た肩から下の黒髪と共にサラパだ夏の暑さよ	北海道小樽工業高等学校	3年	梁瀬えりか
239	海の中漂い浮かぶ海月達僕も君らの仲間に入れて	北海道小樽工業高等学校	3年	渡邊 慶太
240	雪の降る朝はなんだか寂しくて隣で眠る君を揺すった	北海道札幌白石高校	3年	大河真璃子
241	晴天の空を見上げて息を吸う生き抜けあたし生き抜け今日を	北海道札幌白石高校	3年	安井しずく
242	古時計時は今でも刻まれるあなたのいないこんな世界で	北海道津別高等学校	1年	加藤 隼太
243	転校生何度演じて笑ってもやっぱり最後は性格出ちゃう	北海道津別高等学校	1年	鴫田 真由
244	好きだよと返しの言葉が私もよキュンとしたけど部屋には一人	北海道津別高等学校	2年	加藤 晟也
245	秋風をこの身にうける帰り道あの子のぬくもり今よみがえる。	北海道津別高等学校	2年	斎藤 優太
246	おいしいのとっても大好きふとっちゃうもうあきらめよたべたいもん	北海道津別高等学校	2年	進藤沙也加
247	「あいしてる」LINE既読のうれしさが今となっては無視してる	北海道津別高等学校	2年	長野 翔太
248	君よりも愛した人はいないのに君はあの子と手をつないでる	北海道津別高等学校	2年	守川 乃彩
249	ここにいるわかっているのに見に行けない私はいつもスマホ越し	北海道津別高等学校	3年	迫田 真里
250	鮮やかな屋台の中の金魚達二人を繋ぐ赤い糸のよう	北海道富良野高等学校	1年	犬飼くるみ
251	夏祭り人ごみのなかかきわけてまってとその背に一言かける	北海道富良野高等学校	1年	浦島明日香
252	目が合ったそらしてしまった5分前次合った時心きめてる	北海道富良野高等学校	1年	大坂 京介
253	口無しな私のかわりに梶子をキミのとなりでキミに恋して	北海道富良野高等学校	1年	甲斐 杏樹
254	坂道を自転車をかぎ進んでく遠くの君をみつめながら	北海道富良野高等学校	1年	上窪 聖菜
255	つなぎたいその一言が言えなくて花火とともに刹那に散りゆく	北海道富良野高等学校	1年	蔵田 芽子
256	学校祭あなたのことを意識して勇気を出してツーショット	北海道富良野高等学校	1年	齋藤 一樹
257	あふれそうふくらみすぎた水風船おさえてたのに。もういっぱい。	北海道富良野高等学校	1年	酒井 陽菜
258	かき氷君に「買って」とせがんだの私のほほはイチゴシロップ	北海道富良野高等学校	1年	酒井 麗奈
259	「今日こそは」夏期講習の最終日舞い上がるスカート翼にかえて	北海道富良野高等学校	1年	城 実
260	汗ぬぐうその姿さえ恋しくてタオル片手に眺めてるだけ	北海道富良野高等学校	1年	多湖 操稀
261	夏祭りぼくの肩にかかる君の髪その時感じた君とのきより	北海道富良野高等学校	1年	谷口 陵太
262	ポケモンgoめぐりあったのはきみだったポケモンではなくきみだったんだ	北海道富良野高等学校	1年	西出 楽汰
263	気づいてた？あなたが恋するその横でそっと私も恋をしたの	北海道富良野高等学校	1年	広瀬 美月
264	雨粒が水溜まりに二つ落ち君への思いも水に同化し	北海道富良野高等学校	1年	福田 瑞葉
265	ポロポロと静かに聴こえるAの音類に伝わる小さな雫	北海道富良野高等学校	1年	福永 あい
266	この恋に永遠なんてないけれど信じてみたい貴方とならば	北海道富良野高等学校	1年	増子 翔大

267	雨の中一人傘さず帰り道気になるあの子は相合傘	北海道富良野高等学校	1年	増田 小麦
268	五月雨に肩寄せ合わせ歩いてく気持ちと傘はかばんの中に	北海道富良野高等学校	1年	山田 雪来
269	「無理だよ」と心に決めつけ踏み出さず目が合うだけの日々が続く	北海道富良野高等学校	1年	吉田 巧
270	兄に言う「後悔するな」その裏に本当は言いたい「しあわせになれ」	北海道富良野高等学校	3年	辰見瀬里奈
271	何も言わず差し出すタオルやわらかく母の香りに心やすらぐ	北海道富良野高等学校	3年	田中 昇吾
272	夢を追う父の背中に夢をみるこんな大人になれるだろうか。	北海道富良野高等学校	3年	成田希良利
273	彼氏とね花火大会キュンとなる夜空にハート恋する二人	北海道星置養護学校ほしみ高等学園	2年	金沢 早希
274	ハツ恋はトキメク心いまもなお砕けてしまえリア充どもが	北海道南富良野高等学校	3年	當瀬 晴貴
275	家の中消えたインコを見つければ小首かしげて威張り顔する	北海道夕張高等学校	2年	鈴木ひかる
276	「明日、十時。」君との約束繰り返す時計の画面も見飽きてしまった	北海道龍谷学園双葉高等学校	2年	金子 静
277	晴れの日に見上げた空は眩しくて届かぬ夢の如手を伸ばす我	北海道龍谷学園双葉高等学校	2年	高野 友美
278	今年初朝里の海に友と来て足だけ浸かって夏を満喫	北海道龍谷学園双葉高等学校	2年	峯村 瑠奈